

旭中央病院・宮本さんを職場に戻し



地域医療を再生させる会 ニュース

第5回
旭行動

警備会社に任せ 職員は一切の対応を放棄

正面玄関付近で患者さんにビラまき・訴え

失態続きで対応不能に

11月19日に、「宮本さんを職場に戻せ!旭中央病院を住民の手に取り戻そう!」と、第5回旭行動を展開しました。旭中央病院は、病院長への要請行動に対しても、ビラまき行動に対しても、あれだけしつこく付きまわってきたこれまでの態度を一変させ、警備会社任せにし一切の姿を見せませんでした。旭中央病院は、要請団排除に旭警察を出勤させる、要請団をビデオ撮影するなど、失態に次ぐ失態を続け、とうとう対応不能に陥りました。

19日の行動には、JMIU、千葉土建、年金者組合、建交労、地域労連から14名が参加し、患者さんや地域へのビラまきなどに取り組みました。

病院長への表敬訪問も実施しましたが、病院長室への廊下の扉は閉鎖し、警備員を配置して一切の対応を拒否しました。要請団が「職員を呼ぶように」要請しましたが、警備員を通じて「忙しい」等と、まともに対応しない異常な姿勢に終始しました。

要請団は総合受付を訪ね、担当者に、直接対応するよう依頼しましたが、河北人事課長は、受付での電話対応という不真面目な対応を取りました。しかも、「直接説明に来るよう」求めたことに対し、「会わない。会う必要はない」と繰り返し、最終的には一方的に電話を切るという常識的には考えられない対応を取りました。

これまで、要請団を排除するために旭警察から私服警察官10数名を呼ん



だが、要請団の反撃にあい事情も聴かずに退散せざるを得なくなったこと、要請団を1時間以上にも渡ってビデオ撮影したこと、職員へのビラまきに対して難癖をつけたが退散せざるを得なくなったことなど、失態続きの旭中央病院は、とうとう対応不能に陥ってしまいました。

に私たちの運動を強化し、彼らにはつきりと認識させることが必要になっていきます。



どと、無責任極まりない提案をするこ自体許せません。そもそも、この長隆という人物は、国が公立病院潰しを打ち出した「公立病院改革ガイドライン」を推進する先兵の役割を果たしてきています。全国各地の公立病院の検討委員会などに入り込み、「経営効率」のみを優先し、独立行政法人化、管理指定者制度の導入、民間への売り渡しを先導していきっているのです。

長隆「介護関連施設は民間に渡す検討を」旭中央病院検討委員会でとんでもない議論

旭市議会は、「旭中央病院検討委員会」を設置し、外部から委員を招聘して検討を始められています。

第一回の検討委員会では、委員の一人の長隆氏（税理士・公認会計士）は、「旭中央病院は（老人介護施設）をやっている。こうしたものは民間がやれることで、民にまかせるべきであるというのがアイドランの趣旨でもあるので検討いただきたい。大きければいいものではない」などと言いつつ、直しを求めています。

旭中央病院は、住民がつくりあげてきた、住民の財産です。しかも、住民の老後の安心につながる大切な施設を、「民間に任せればいい」など、無責任極まりない提案をするこ自体許せません。そもそも、この長隆という人物は、国が公立病院潰しを打ち出した「公立病院改革ガイドライン」を推進する先兵の役割を果たしてきています。全国各地の公立病院の検討委員会などに入り込み、「経営効率」のみを優先し、独立行政法人化、管理指定者制度の導入、民間への売り渡しを先導していきっているのです。

今、旭中央病院に必要なのは、こんな無責任な外部委員の意見を聞いて「経営効率最優先」の見直しをすることではありません。住民や職員と徹底的に議論をして、地域医療の充実と発展のために、旭中央病院は、公的病院としてどういう役割を果たしていくべきなのかを確認していくことです。

委員が、どのようにして選出されたのかも住民にまともには知らされず、地域と全く関係のない「有識者」による検討委員会なるものは、有害以外の何物でもありません。

私たちは、住民の皆さんと力を合わせて、旭中央病院の民主的運営を実現するために、引き続き運動を強化していきます。

